

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく、安心して暮らせる生活の場」という運営理念をつくり、利用者の方に説明して書いていただいたり、玄関に掲示しています。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人らしさ」を具現化するため、その人が一番輝く役割であったり、その人が望む介助や話し方で一人ひとりを大切にされたケアが行われています。また、定例会やその他随時、理念に対する管理者の思いや方針を職員に伝え、ケアにあたるよう話しています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の来訪時や、2ヶ月に1回発行する個別便り、年に4回発行する広報で理念を伝えるようされていますが、地域に対しての情報発信が不十分なところがあります。		併存事業所と協力して地域向けの情報誌の発刊を行い、地域に回覧していただくことを期待します。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会主催の行事(どんど焼き、盆踊り、側溝掃除、作品展、料理講習会)や高齢者大学「あやめ学級」などにも参加し、地域の人々との交流への積極的な関わりが見られます。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者会議や定例会時に説明し、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しています。又、職員全員で自己評価の取り組みもしており、問題点、改善へ向けての話し合いを具体的な項目を取り上げ、職員どうしで意見を出し合いながら取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営委員の方々より率直なご意見・要望・助言を頂き、そこの内容を議事録にまとめ職員が確認することができています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者にお便り、運営推進会議議事録などを報告し、適宜連携を図ることができています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH内で虐待についての定義や研修会にも積極的に参加し、職員全員が把握できるよう話し合いの場を設けています。更に心理的な虐待にも充分注意するよう指導されており、言葉の虐待についても玄関・事務所等に貼られ徹底されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度の個別便り、GH便りの他に、面会・受診時などに日頃の様子をお話ししたり、金銭をお預かりしている方には出納帳の確認とサインを頂いております。また、体調の変化、病院への受診、身の回りの生活物品の補充など気付いたことがあるときは常に連絡されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は行われておりませんが、定期的にご家族に請求書に同封し、はがきによるサービスアンケートを送り、面会時・受診時などにホーム側から何か要望ないかなどを持ちかけたりして意見が出やすい工夫がされています。		家族会という形ではなくても、家族同士が集まり、相談し合ったり、意見を取り交わす場の検討を期待します。
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回(夏・冬)定期的に3者面談を実施し、あるいは必要に応じて個別の面談を行い、運営に関する職員の意見を聴き取っています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や交替は必要最小限に抑え、利用者や職員、家族と職員の間に関係と信頼関係が築けるよう配慮されています。また、職員が他の事業所へ異動した際には利用者へ説明し、個別便りにも記載されています。さらに、異動先に利用者や訪問するなどの対応も行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	基本的なマニュアルは揃っております。また、より現状に即したマニュアルにするための見直しも、定例会の時間で現在進められています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会の機会は少ないようですが、外部での研修に職員が受講できるように計らい、定例会にて研修の報告を行い、復命書に研修内容をまとめ、研修内容を共有できています。		施設内での具体的な事例演習を定期的に行うことを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や交流を通じて情報を得ており、また他事業所の意見等もとりいれてサービスの向上に活かされています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に、あるいは必要に応じて個別の面談を行い、業務上の悩みや職場に対する思いを聴き取り、職員のストレスの軽減に努めています。又、その要望や意見を働きやすい職場作りに活かすことができます。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者、ご家族の不安な点などよく話し合い、他利用者とのコミュニケーションが取れるような配慮や、体験入所、体験お泊り、ご家族ご宿泊も随時行っています。また、慣れるまでは積極的な声かけをするよう職員間で共有されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩との心持ちを忘れず対応し、ただ支援するだけではなく家事などのお互いにできること、知らない事等を通して信頼関係を築こうとされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者が穏やかに安心して生活できるのも、ご家族の関係が重要であり、どんな事でも相談しながら一緒に考えましようとのスタンスで支援されています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの聴き取りや、ご利用者自身の言葉からどんな思いがあるのか、できるだけご本人の意思を把握し、尊重するようにされています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、ご家族やご利用者の聴き取りにより馴染みのあるご本人らしい生活の継続を支援できています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族からの情報や担当者会議を行い、日々の生活に関わっている複数職員から課題や本人の意向を把握し介護計画に反映されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ見直しを行い、対応できない変化や緊急の必要性が出た場合にはただちに見直しを行っております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所として、一人ひとりに応じた柔軟なケアを行うとともに、複合福祉施設のメリットを活用し、ショートステイ・デイサービスとの連携を密にすることで、利用者の状態に合わせた対応が可能となっております。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常それぞれのかかりつけ医への受診はご家族にバイタル表及び介護要約で状況をお話ししてお願いしているが、随時柔軟に対応し職員が受診することもあります。又、それ以外にかかりつけ医が併設事業所に週2回の往診があり、急変時往診対応を行っています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ作成途中の書類もありますが、重度化した場合、終末期のあり方については運営規程を使用し契約時にお話ししています。		重度化に伴う意志確認書の作成や、ホームとしての対応できる指針を明確に文書にすることを期待します。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の誇りやプライバシーを傷つけるような声かけをしない事、さりげない介助を心がける事などの徹底がなされています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のおおよその時間は決まっていますが、入居者の1日のペースに合わせてゆったりした支援を行っています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者個々の力を活かしながら、買物、下ごしらえ、盛り付け、テーブルセッティングなど活躍できる場面作りをし、職員と一緒にゆっくりと食事を楽しんでいます。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄リズムや行動を把握してトイレ誘導を行うことで日中は布パンツで過ごせるようになっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人お一人の希望で入浴し、状態により介助が必要な時は職員の手を借り、ゆったりくつろいで頂けるよう支援しています。又、足浴などの支援も行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや繕い物、又はしりとりと聞くと笑顔で参加されたり、得意料理をご馳走してくれたりといろいろな場面で参加できるようさりげない環境整備がされています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	新聞とりや回覧板回し、草とり、日常的な散歩や買物、図書館や地域の行事、外食などにも出かけられるよう支援しています。また、外出が困難な利用者にも工夫して対応されております。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を毎年受講、それを定例会での勉強会につなげています。また、『身体拘束とは何か』というテーマで職員同士で検討がされていました。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関は施錠しない方針であり、安全確認やさりげない付添いなどの支援がされています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご利用者の状態を把握して、個々にどのようなリスクがあるのかを職員全員が業務日誌の申し送り等で共有し、事故防止に努めています。ヒヤリハット報告書、事故報告書も記載されており、事故報告も速やかに市に提出し、改善策の検討会も開いています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習会が年2回行われパート含む全員が受講しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと年2回の避難訓練、消火作業訓練を行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のバイタル表に食事摂取量、水分摂取量を記載し一日の水分量の少ない方には摂取しやすい工夫を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔感と開放感がある建物に、程よく手作りの作品や写真などの装飾がされており、温かさを感じることができます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や備品など、利用者や家族の希望に対応して、一人ひとり好みに部屋になるようされています。		